諸指標から見る奈良県の現状

◇奈良にはすばらしい資源がある。奈良には実力がある・・・・・・

このような幻想をいつまで持ち続けられるのであろうか？

◇奈良が大阪のブランチとしてのうのうとしている間に、滋賀は先へと進んでいる。奈良は、様々な分野で、他府県に抜かれてしまった。奈良に本当の実力があるのか、ないのかを議論しければならない時期にきている。

◇例えば、大阪で活躍されていた方々がリタイアされ、知識・経験・ノウハウをもつ方々が奈良での活動に十分な時間を充てられる状況になっているにもかかわらず、その方々に、奈良の将来基盤づくりにあたっての協力を得るような仕組みづくりは行われていない。高校生は、県内の大学に進学しない。大学生は、奈良では就職先がない。この10年で観光入込客数を減らしたのは、近畿地域では奈良だけである。このような状況が多々見られる。

◇奈良に資源・潜在力があることは認めるが、固有の資源（自然資源、歴史文化資源、生活文化資源、人的資源、伝統技術など）を活かしながら、社会経済の発展・変化に合わせて変わっていこうとする意欲・能力に欠ける状況が見られ、ユデガエル現象に陥っているのではないかと思われる。

◇素晴らしい資源がある、実力があることを幻想に終わらせないために、県民一人ひとりが問題意識をもち、みんなで将来像を共有し、「共働」して、新しい奈良を創り上げていく必要がある。

諸指標から見る奈良県の現状

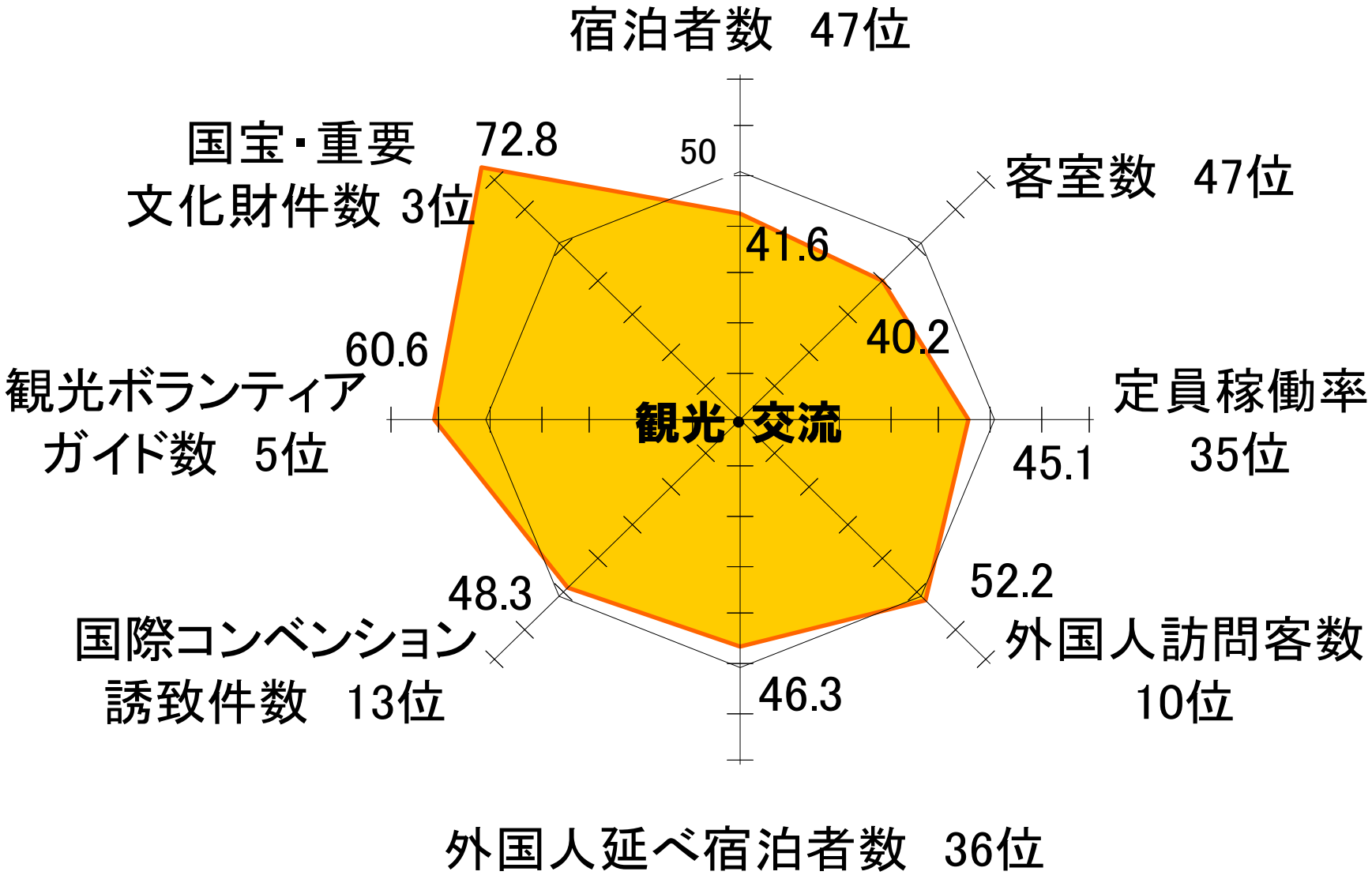
奈良県の人口は、全国で28位、全国のほぼ中位にある。この中位をひとつの基準として諸指標を見ていく必要がある。例えば、世帯主の勤め先収入は全国4位、最終学歴が大学・大学院卒の人の割合が全国3位、教育費が8位、大学・短大進学率は8位である。この一方で、県内大学入学者に占める自県出身者の割合が下から2番目となっている。大学数や大学学生数はほぼ中位であるが、理工系大学がないため、県内の高校生にとっては選択肢が少ないという状況がある。

分野	指標項目	現状	順位
基本指標	人口	142万人	28
	実収入(1世帯当たり1ヶ月間)	55.18万円	18
	世帯主の勤め先収入(1世帯当たり1ヶ月間)	49.45万円	4
地域づくり	NPO数	328団体	31
	ボランティア活動の年間行動者率(15歳以上)	27.7%	24
	最終学歴が大学・大学院卒の者の割合	19.5%	3
教育環境	教育費割合	28.21%	8
	大学・短大進学率	57.5%	8
	県内大学入学者に占める自県出身者の割合	20.3%	46
	大学数	10校	19
	大学学生数	25,265人	22
	大学院学生数	2,296人	22
	大学教員数(本務者)	1,450人	27
	成人一般向け学級・講座数(100万人あたり)	2,676講座	27

資料)2008年総務省統計局「社会・人口統計体系」、2008年度「学校基本調査」より作成

諸指標から見る奈良県の現状

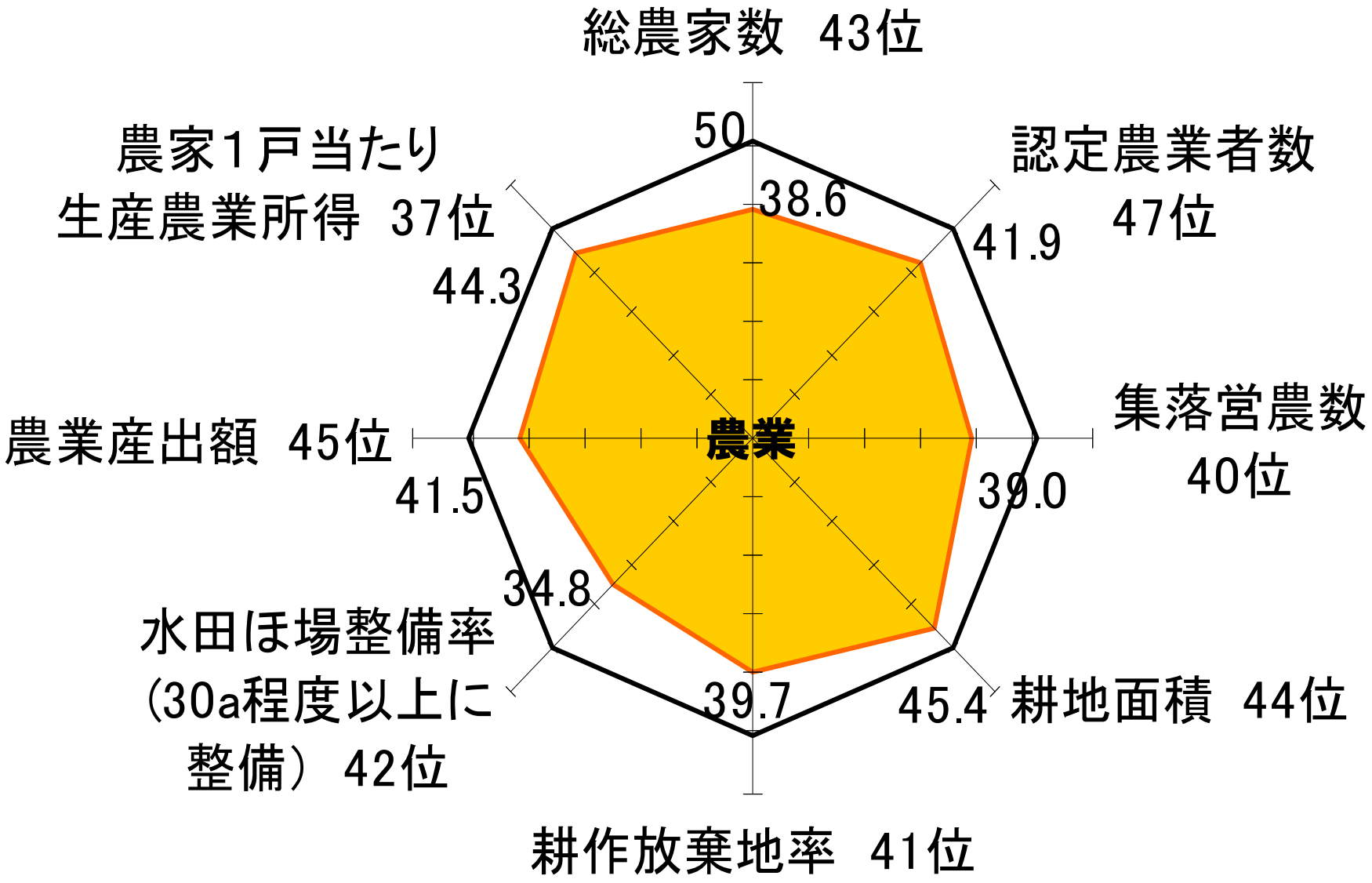
観光・交流では、国宝・重要文化財件数が全国3位。観光ボランティアガイド数が全国5位である。それにも関わらず、宿泊者数は最下位、客室数が最下位となっている。外国人の訪問客は10位であるが、宿泊者数は36位という状況にある。



注）グラフは奈良県作成資料

諸指標から見る奈良県の現状

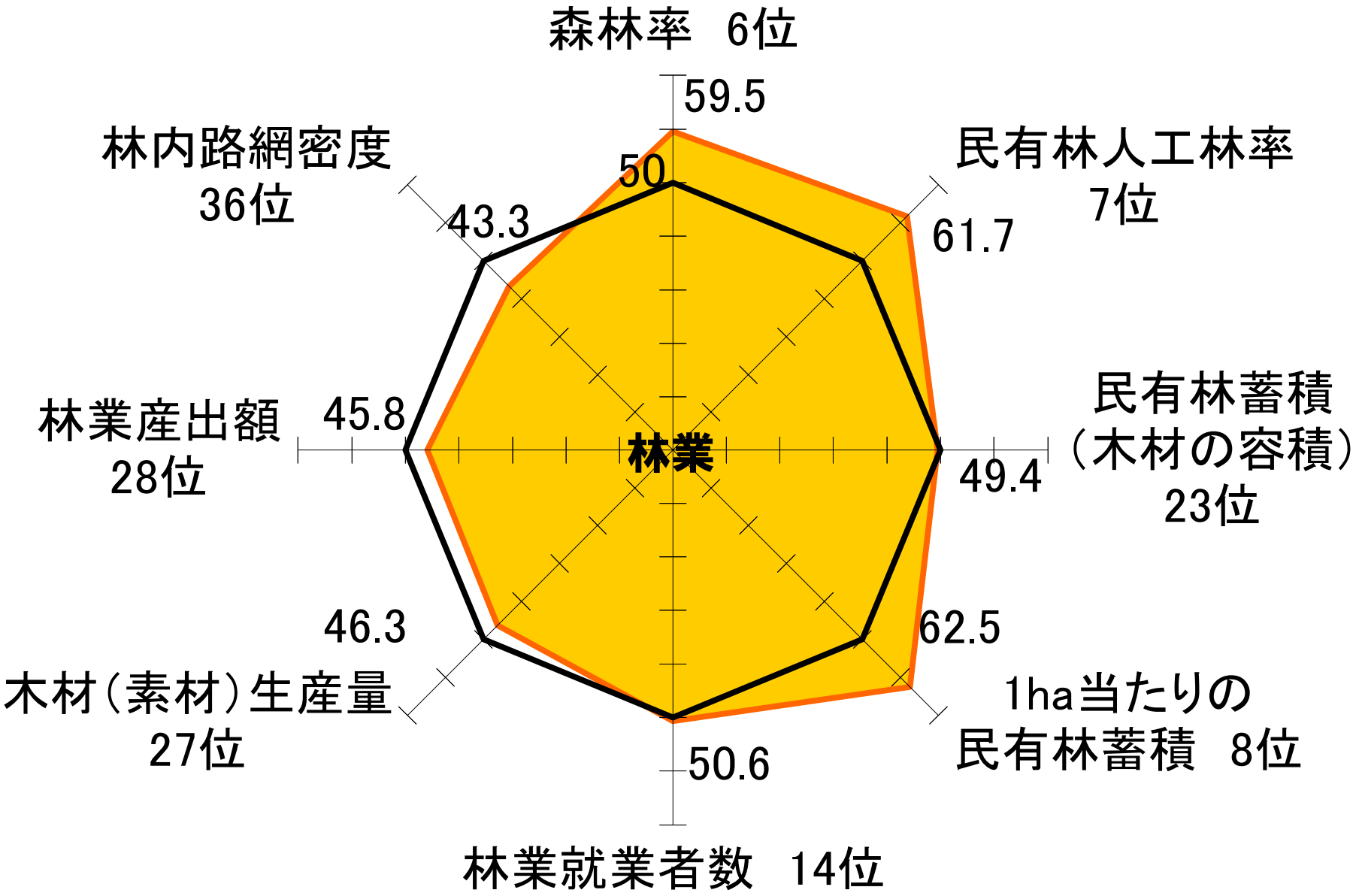
農業に関しては、殆どの指標が下位である。



注）グラフは奈良県作成資料

諸指標から見る奈良県の現状

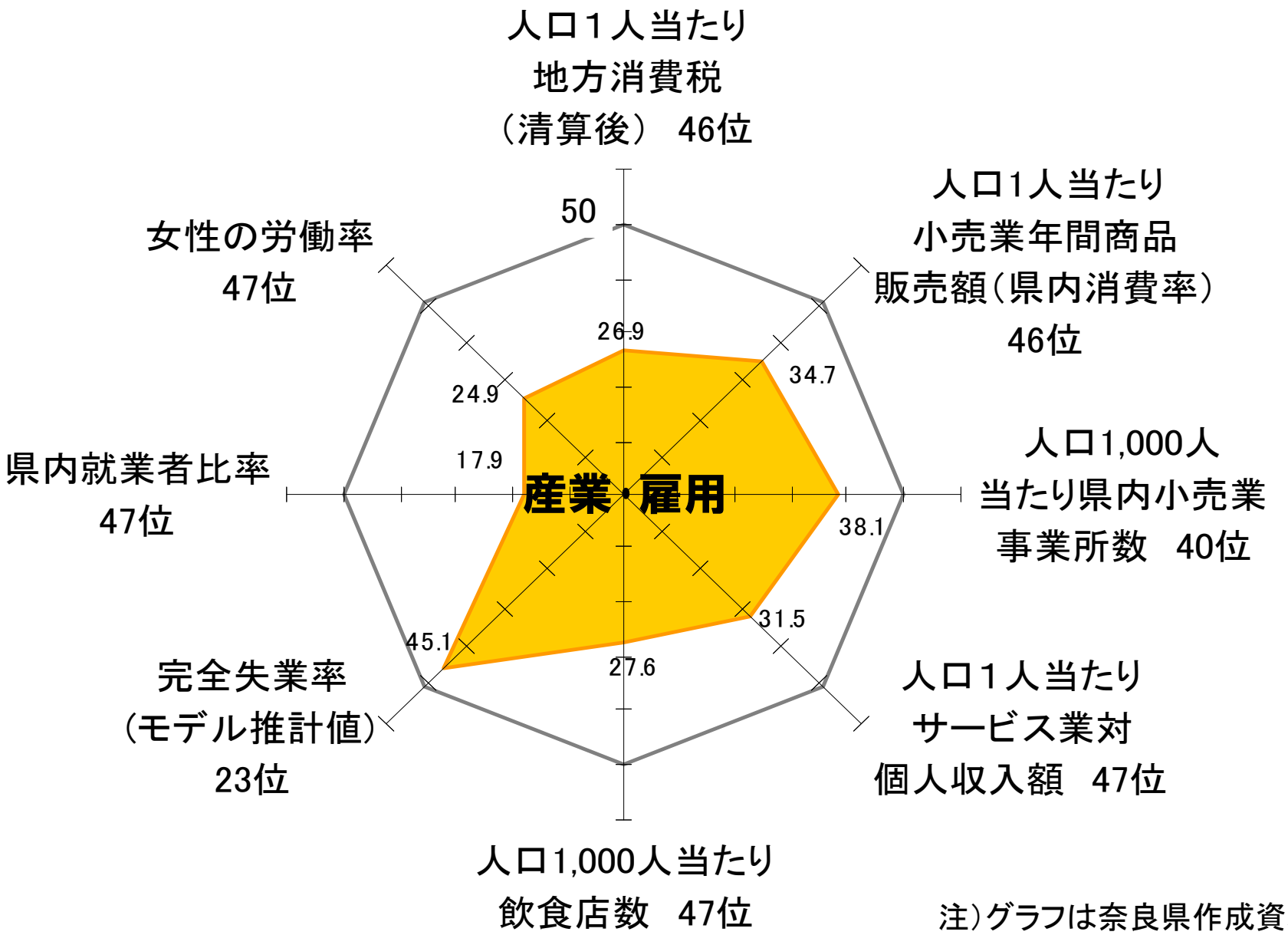
林業では、森林率、林業就業者数が上位にあるが、林業産出額、木材生産量は中位に落ちる。
林内路網密度が低いことが関係しているようである。



注）グラフは奈良県作成資料

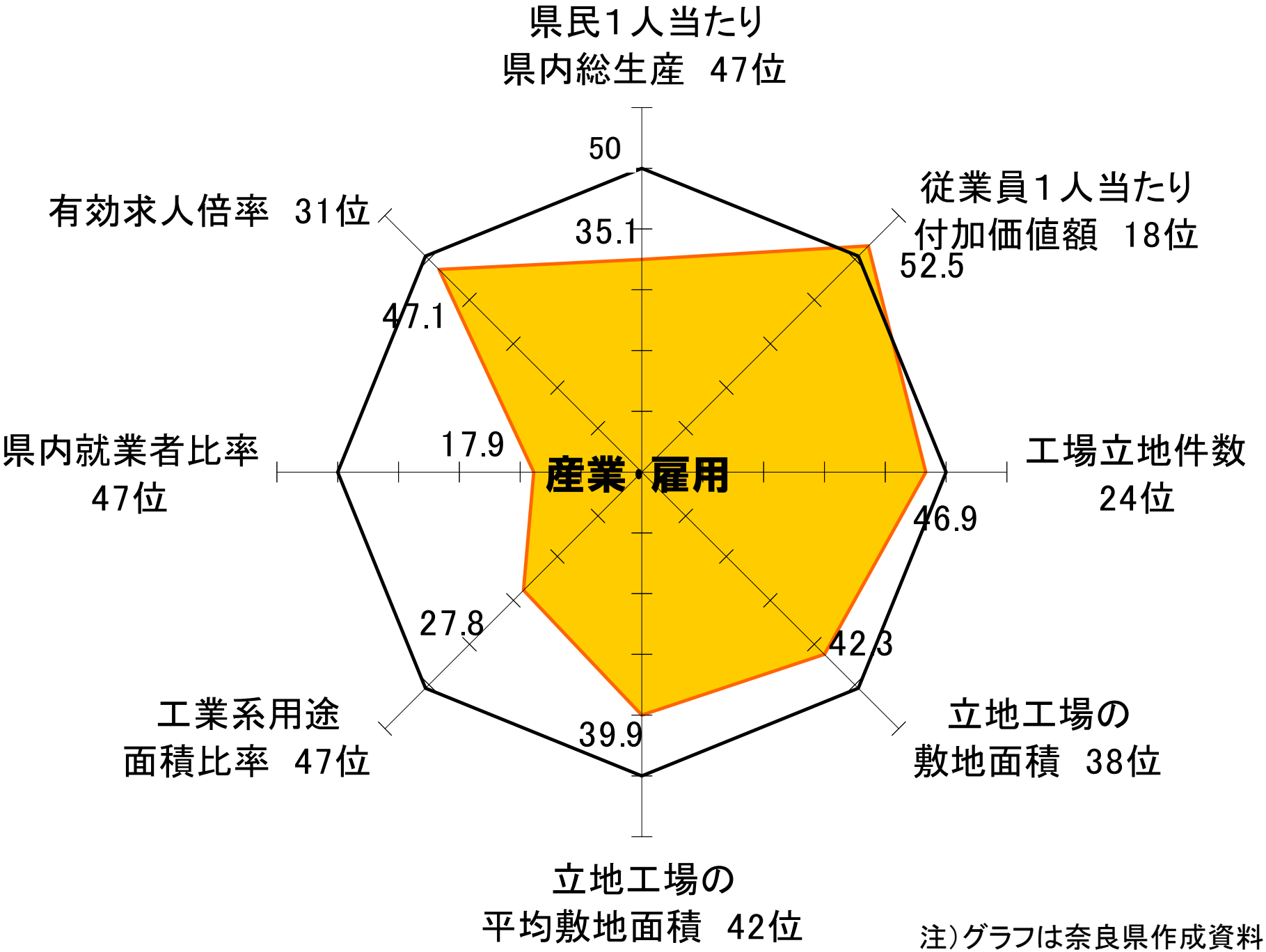
諸指標から見る奈良県の現状

産業と雇用では、人口1人当たり地方消費税、人口1人当たり小売業年間商品販売額、人口1,000人当たりの飲食店数、県内就業者比率、女性の労働率が全国最下位という状況にある。県民1人当たりの県内総生産は最下位で、立地工場の平均敷地面積も小さいという状況にある。



注）グラフは奈良県作成資料

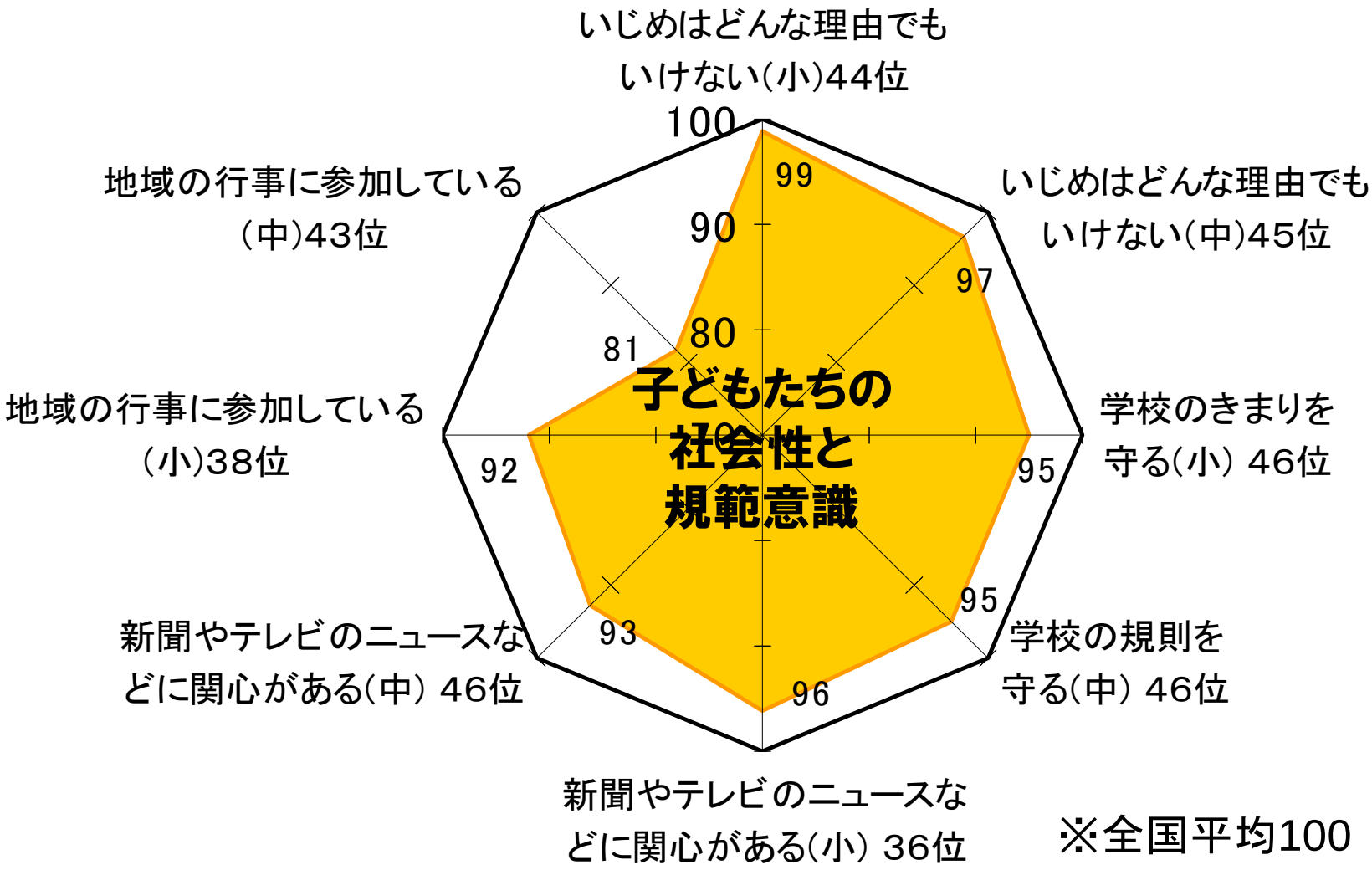
諸指標から見る奈良県の現状



注）グラフは奈良県作成資料

諸指標から見る奈良県の現状

子どもたちの問題もある。子どもたちの社会規範意識、あるいは社会参加性が低位にある。地域の行事に参加している、あるいは新聞やテレビのニュースなどに関心がある、学校の規則や決まりを守る、いじめはどんな理由でもいけない、といった項目が殆ど最低位にある。教育費が高く、進学率も高い、頭の良い子はたくさんいるが、人間力に欠けているようにも見受けられる。



※全国平均100

注)グラフは奈良県作成資料